

用語

1. 弛緩出血：胎盤剥離後に起こる子宮収縮不全が子宮筋層の胎盤剥離部の血管の圧迫止血不全の原因となり起こるもの
2. reactive pattern：胎児の状態が良好である心拍の波形。
3. base line：胎児心拍数基線、1分間の基準となる平均胎児心拍数。
4. reassuring fetal status：胎児が良好な状態にあること。
5. 細変動：児が環境に順応して起こる児心拍数の基線変動をみる。
6. 展退：子宮の収縮によって子宮口が徐々に開き（子宮口の開大）、子宮頸部が引き上げられて薄く伸び、子宮の他の部分と一体になる。これを展退という。これらの変化によって、胎児が産道を通り過ぎることができるようになる。
7. Station-1：児頭は分娩が進行すると子宮頸管、膣の中を少しずつ移動してくる。この移動を児頭の下降と呼んでいるが、この下降具合を表現するのが station である。station は-3～+3までである。
8. ドップラー：児心音をきく器械。
9. 除細動：（でんきてきじょさいどう）とは重症不整脈である心室細動、無脈性心室頻拍が原因で心停止に陥った心臓に電流を流すことで細動や頻拍をなくす処置である。心房細動などの頻脈性不整脈を停止させるときにはカルディオバージョン（同期させた上での電気治療）を行う。いわゆる「電気ショック」（AED）
10. バックバルブマスク：鼻、口を覆うマスクと一方弁が付いたバルブ、それに自動膨張するバッグからなる。また、専用のリザーバーを付けることにより、バッグが自動膨張する際にリザーバー内の酸素を取り込み高濃度の酸素を患者に供給できる。
11. 経皮的酸素飽和度：SpO₂とは、血液中にどの程度の酸素が含まれているかを示す。SpO₂のSは Saturation（飽和）、Pは Pulse（脈）、O₂は酸素を示しています。血液中には酸素を運ぶヘモグロビンがある。SpO₂は、血液中（動脈）の多くのヘモ

グロビンの何 %が酸素を運んでいるかを示している。正常値は96 %以上、95 %未満は呼吸不全の疑いがある。SpO₂ は、パルスオキシメータという簡易装置を用いて測定する。

- 1 2. フィブリンの析出：血液が一部固まっている状態。
- 1 3. DIC（播種性血管内凝固症候群）：（はしゅせい けっかんない ぎょうこし ょうこうぐん、英 **disseminated intravascular coagulation : DIC**）は、本来、出血箇所のみで生じるべき血液凝固反応が、全身の血管内で無秩序に起こる症候群。全身血管内における持続性の著しい凝固活性化により微小血栓が多発し、進行すると微小循環障害による臓器障害をきたすとともに、凝固因子・血小板が使い果たされる（微小血栓の材料として消費される。医学的には消費性凝固障害と言う）ため、出血症状が出現する。凝固活性化とともに、線溶活性化（血栓を溶かそうとする生体の反応）もみられる。血を止めるための血栓（止血血栓）が、過剰な線溶により溶解することも出血の原因となる。
- 1 4. Apgar score 9/9：アプガール・スコア（1分後）／（3分後）。出生した児の状態を得点化し評価することで、そのときの児の状態、今後の治療の必要性、予後等を評価する。判定基準は0～10まで、数字が大きいくほど元気である。
- 1 5. 双手圧迫術：片手を子宮後壁の腹部から、もう一方の手を前壁の膈内から把持しマッサージすることをいう。弛緩出血時の止血の方法の一つ。
- 1 6. 血液凝固・線溶系の異常：血液凝固因子は出血を止めるために生体が血液を凝固させる一連の分子の作用系であり、そうして固まった血栓を溶かして分解するのが線溶系である。多くの病態で二つは密接に関係している。侵襲を受けていない血管壁でも血栓の形成と線溶は絶えず繰り返されており、バランスが崩れるとDICなど様々な疾患を引き起こす。
- 1 7. 内因性・外因性凝固因子：血液凝固因子とは血管内で起こる凝固（内因性）と血管外にもれて組織内で起こる凝固（外因性）があり、これをいう。
- 1 8. 2次線溶：血小板と凝固因子の低下による消費性凝固障害によって2次的に引き起こされる。血管内皮からのプラスミノゲンアクチベーターの放出される病態でフィブリン（止血作用）が分解される現象で出血傾向が高まる。
- 1 9. サイトカイン血症：病態の本体が不明であることから効果的な治療法の少なかつ

た疾患を、血中のサイトカインが高値になることから高サイトカイン血症症候群という概念でまとめている。

サイトカイン血症とは侵襲によって組織破壊・消化が起こると、有毒物室が発現する。

薬品名

1. プレドバ：昇圧薬、強心薬（循環器系に作用する）生体活性化薬ウテメリン：子宮収縮抑制薬、（適応症・・・以下適）：切迫流・早産。
2. オキシトシン：子宮収縮下垂体後葉ホルモン、（適）：弛緩性子宮出血など。
3. マレイン酸エルゴタミン（メチルエルゴメトリン）、（適）：子宮復古不全・弛緩出血における子宮収縮の促進並びに子宮出血の予防。
4. アドナ：血液に作用する止血剤、（適）：子宮出血、腎出血、術中・術後出血など。
5. トランサミン：血液に作用する止血剤、（適）：術中・術後出血、性器出血、腎出血など。
6. サリンヘス：血漿増量薬、（適）：各科領域における出血多量の場合。
7. プロスタグランディン：子宮収縮薬（適）：妊娠末期における陣痛誘発・陣痛促進。
8. エフェドリン： β 刺激薬、昇圧剤（呼吸系に作用する）
9. ペンタジン：非麻薬性鎮痛薬。
10. プリンペラン：制吐作用。
11. ポタコール：電解質輸液薬。
12. ドーバミン：強心薬（循環器系に作用する）生体活性化薬剤。
13. 硫酸アトロピン：抗コリン作用（消化性潰瘍治療薬）交感神経作用への働きかけ。
14. ボスミン：昇圧薬（循環器系に作用する）
15. ノルアドレナリン：昇圧薬（循環器系に作用する）
16. メイロン：補正用製剤、血中PHを平衡にたもつ、（適）：アシドーシス。
17. ビーン：電解質輸液薬。
18. プレドバ：昇圧剤、強心剤（循環器系に作用する）生体活性化薬。

検査

1. 血小板：血液中の有形成分の一つ。骨髓巨核球から作られ、血液の凝固にあずかる。
正常値：1立方ミリメートル中に15～25万個含まれる。
2. ヘモグロビン（血色素）：鉄を含む色素と蛋白質が結合した化合物。赤血球中などに含まれる。酸素と結合し、呼吸における酸素の運搬に重要な働きをする。正常値：

13± 2 mg/dl。

3. プロトロンビン:血漿中に存在する物質。血液凝固過程中に酵素トロンビンとなる。トロンビンは血液に含まれる水溶液のフィブリーゲンを不溶性のフィブリンに変化させる酵素。
4. 活性化部分トロンボプラスチン (APTT) : 血液凝固にあずかっている因子の一つ。プロトロンビンをトロンビンに変える。基準値 30~45(秒)
5. フィブリノゲン:血漿中に存するグロブリンの一種。血液凝固の際、不溶性のフィブリンとなる。血漿中に 0.3g/dl ぐらい含まれる。
6. Dダイマー:フィブリンがプラスミンによって分解される際の生成物。血液検査において血栓症の判定に用いる。播種性血管内凝固症候群によって産生されるため、本症を示す臨床検査として用いる。基準値 2,0~8,0 mg/dl。
7. プロトロンビン時間 (P T) : 血液の凝固因子に関する指標の一つ。外因系及び共通系の凝固異常を判定する検査。基準値 12±2(秒)

輸血用血液と血漿分画製剤

1. 濃厚赤血球

効能又は効果: 血中赤血球不足又はその機能低下による酸素欠乏のある場合に使用する。

2. 新鮮凍結血漿

効能又は効果:

- ①血液凝固因子の補充。
- ②複合性凝固障害で、出血、出血傾向のある患者又は手術を行う患者
血液凝固因子が特定できない場合。
- ③血液凝固因子の減少症又は欠乏症における出血時で、特定の血液凝固因子製剤がないか又血液凝固因子が特定できない場合。

3. 血小板

効能又は効果: 血小板数の減少またはその機能低下による出血傾向のある場合に

使用する。

4. 献血アルブミネート（赤十字アルブミネート）

効能又は効果：

- ① アルブミンの喪失（熱傷、ネフローゼ症候群など）及びアルブミン合成低下（肝硬変症など）による低アルブミン血症。
- ② 出血性ショック。

以上